

【シリーズSDGs ⑪】
身近なところからSDGsの取組をしましょう。

ゴール11「住み続けられる

まちづくりを」

SDGsゴール11は「住み続けられるまちづくりを」を目標としています。

現在、世界人口75億人のうち50%以上の人が都市に住んでいて、2050年には約70%まで上昇すると予想されています。大勢の人が快適に暮らせるよう、住み続けられるまちづくりを目指すことが求められています。

一方、地方では人口減少や少子高齢化が進行し、持続可能な都市づくりや継続的な住民サービスの維持への影響が懸念されています。こうした課題に対応するため、医療・福祉施設、商業施設や住居などがまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設などにアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直す「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えでまちづ

くりを進めることが求められています。

○行政の役割としては

誰もが幸せに住み続けられるまちづくりを進めるため、住民参画のもと計画的なまちづくりを進めることが求められています。

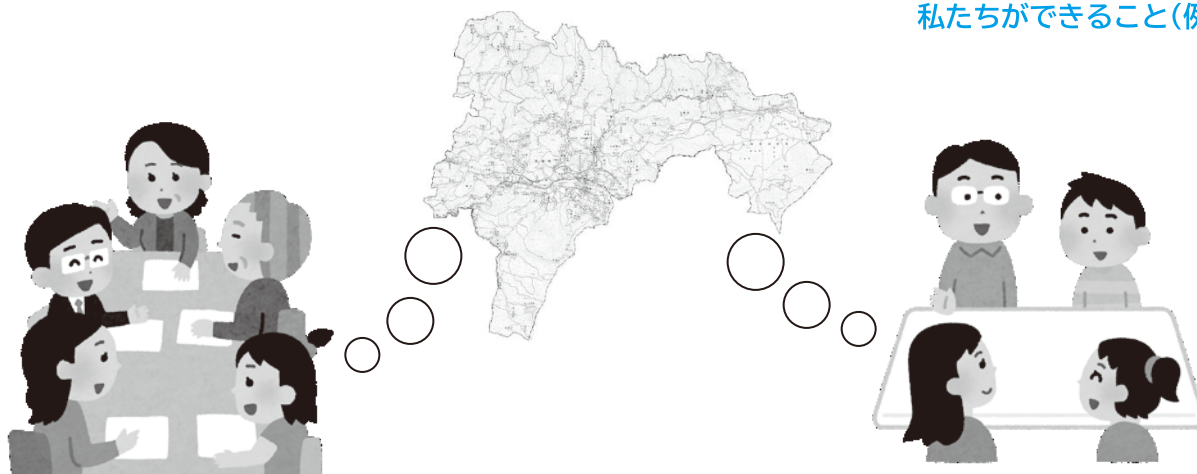
○私たちができること(例)

- ・まちづくりに参加する。地域活動などへの参加から始めてみる。
- ・自分の住んでいるまちの魅力やどうやったらもっと住みやすくなるかなど考えてみる。

2030年までの国際的な目標の実現に向け意識をして実践しましょう。



私たちができること(例)



地域や家庭で、玖珠町の魅力やどうやったらもっと住みやすくなるかなど、話し合ってみましょう。

目標達成のためのターゲット

- 2030年までに、すべての人が、住むのに十分で安全な家に、安い値段で住むことができ、基本的なサービスが使えるようにし、都市の貧しい人々が住む地域（スラム）の状況をよくする。
- 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような能力を高める。

SDGs 11「住み続けられるまちづくりを」では、上記のような10のターゲットを掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用